旬の沖釣りをエンジョイ！

今がチャンス！ これから楽しみ！

釣りどきレポート

Best Season Report

今回は巻頭特集にプラスして
GWにおすすめの釣り物をピックアップ。
手軽な小物から難易度高めのテクニカル系まで
船釣りをエンジョイしましょう！

◎南房江見港発↓江見沖

マダイ、青物、根魚etc. 江見沖のコマセ五目が熱い

本誌APC(東京)／鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

「南房江見の第二絹丸のコマセ五目、色んな魚が釣れて面白そうですよ。取材に行ってみませんか？」と内山記者から言われてさっそく絹丸のホームページを覗いてみると、アマダイやカンコ、カイワリ、キダイなど多彩な魚が入ったクーラーの写真がアップされていた。

船宿に電話を入れると、「全部アミコマセの五目釣りの釣果ですよ。思わぬ大物も出るので仕掛けはハリス3号3～3.5メートルの3本バリを用意してください。付けエサは持ち込みでお願いしてます、オキアミの2Lサイズがおすすめです」とのこと。

ちなみにオキアミ以外のエサも必要か聞くと、その必要はないとのことだった。

「春に3日の晴れなし」の言葉どおり、週末は悪天候が続いたため今回は3月末の平日釣行で第二絹丸に出かけた。

集合時刻の5時に船着き場に着くと、久しぶりのナギとあって私を含め7名の釣り人が続々と到着、準備を済ませた5時20分に出船となった。

キントキ主体にスタート

25分ほどの航程で江見沖のポイントに到着。潮回りの後、「水深72メートル。タナは底から3～5メートルを探って」との合図でスタート。

船長に釣り方を聞くと、底ダチを取ったら2メートルほど巻き上げてコマセを振り、3メートルまで巻き上げてしばし待ち、アタリがなければゆっくり誘い上げ、底から5メートル上までリサーチするとのことだった。

注意事項は、コマセを出しすぎると魚がコマセの帯とともに移動してしまうので、コマセカゴの調整は絞り気味に。そして置き竿にせず、まめに誘ったほうがアタリが増えるとのこと。

1投目から左舷トモの熊谷さんにヒット。上がってきたのは30センチ級のキントキ。続けて右舷トモ2番の太田さんも竿をしならせ30センチ級のキダイを取り込む。

太田さんは直後に800グラム級のオニカサゴも釣り上げ滑り出しは好調。しかし、どうしたものか後が続かない。

潮の流れを見た大川船長が、「出しの潮じゃあダメだ。沖から入る潮じゃないと」と浮かない顔。

このエリアの海底は各所に根が点在しているので様ざまな魚種がすみ着いている。そこに鴨川海底谷の先端が食い込んだ地形となっているので、沖から入る潮だと海底の水が沸き上がり魚たちの活性も上がるのだろう。

そんな折、なんだか海鳥が集まり出してやけに海面が騒がしくなってきた。船長が指さす方向を見ると、イルカがイワシの群れを追い込んでいるようだ。

これが呼び水となったのか、徐々にアタリが増えて右舷トモの田野さんはキントキ2尾とカイワリ1尾の3点掛けを達成。

7時過ぎには入れ食いタイムに突入し、各所で様ざまな魚が釣れ始めた。

船長もアタリが遠くなると頻繁に潮回りを繰り返し、流し変えた直後には確実に魚がヒットするという展開だ。

「このポイントはマダイもいるから気を抜かないで！」と船長が声を上げた矢先、田野さんの竿がグイッと曲がった。

慎重なヤリトリで上がったのは1キロ級のマダイ。続いて釣友の塙君が「タモお願い」と叫んだので駆け付けると海面にユラユラとマダイが浮いており、無事タモですくい上げ1キロオーバーをゲット。

思わぬ大物が登場！

撮影がひと段落した8時過ぎから私も竿を出す。

1投目からギューンときて25センチのキダイをキャッチ。次投は最初のアタリの後に追い食いを狙って誘いを入れると、ググッと次のアタリがきてキダイがダブルで上がってきた。

再投入してコマセを振った途端にヒット。キダイよりも引きが強い、激しい突っ込みを竿のためでかわしながら慎重に巻き上げ、無事タモ取りしたのは25センチ級のカイワリのダブル。

この時間帯は各所でカイワリが釣れ盛り、左舷胴の間の坂井さんは3点掛けを達成。

「鈴木さ～ん、左舷でアマダイが上がったよ」との船長の声で左舷に向かうと、坂井さんが42センチのアマダイを釣り上げていた。

間を置くことなく今度は太田さんがアマダイらしきアタリをとらえて巻き上げ開始。断続的にギュギューンと突っ込み竿先が海面に突き刺さる。

手に汗握るヤリトリでポッカリ海面に浮かんだのは55センチ、1.7キロの特大サイズのアマダイ。船長が言っていた思わぬ大物の登場に、ハリス3号仕掛けの必要性を実感する一幕となった。

撮影を済ませ席に戻って釣り再開。ほどなくすると竿先にククッときて、ひと呼吸を置いて竿を立てるとググーンと絞り込まれた。

巻き上げ中に激しい抵抗を見せ、ドラグが滑って電動リールのモーターが唸りを上げる。上がってきたのは45センチのアマダイ。この流しでは40～55センチ級のアマダイが合計5尾も取り込まれた。

食いが一段落した10時過ぎ、水深90メートルに移動。ここではキントキがポツポツ上がり、11時過ぎに沖揚がりとなった。

当日船中で釣れた魚種はマダイ、ハナダイ、キダイ、アマダイ、カイワリ、キントキ、イサキ、ウスメバル、オニカサゴ、カンコ（ウッカリカサゴ）、アヤメカサゴ、ホウボウ、マハタと13目を数え、皆さんのクーラーも多彩な魚種でにぎやかに。

色んな魚を釣りたい五目釣りファンならずとも、江見沖のコマセ五目はおすすめ。ゴールデンウイークの釣行計画にぜひ加えていただきたい。

▲江見沖のコマセ五目は50センチオーバーのジャンボアマダイも顔を出す

知っ得！ Tips and Tricks 美味なカイワリ

カイワリは、めったに市場に出ないので一般的に知名度は低いが、アジの仲間では最高ランクの食味を誇る。とくに刺身がおすすめで、メジャーな高級魚シマアジにも劣らないと評判。もちろん塩焼きにしてもおいしい。カイワリの名の由来は諸説あるが、漢字では「貝割」と書き、ハマグリなどの二枚貝を開いたような体高がある容姿からカイワリと呼ばれるようになったとされている。

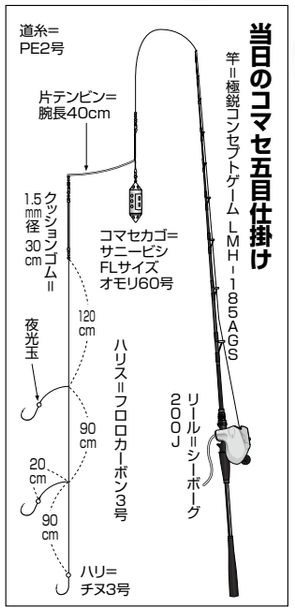
▶度食べたらやみつき！

●すずき　よしかず／お客さんを接待してのヒラメ釣りは大成功。そして次の日には、包丁を持って出張板前としてお客さんの家を3軒ハシゴしました。

•Tackle Guide

コマセカゴはプラカゴFLサイズ、オモリは60号。仕掛けはハリス3号3～3.5メートル3本バリで付けエサはオキアミを使用。竿は7：3調子で全長2メートル前後のゲームロッドに小型電動リールの組み合わせがマッチする。

当日のコマセ五目仕掛け



▼1キロオーバーのマダイも上がった

▲キントキは25～30センチ級が多かった

◉船宿information

南房江見港
第二絹丸
☎090・1044・2678
（詳細は巻末の情報欄参照）

大川 浅雄船長

▶料金＝コマセ五目乗合一人1万円（コマセ、氷付き）、付けエサは持参
▶備考＝予約乗合、5時集合。ほかイサキ、オニカサゴへも出船